

札幌国際芸術祭（仮称）

基本構想

平成24年6月

札幌市

ご あ い さ つ

日本全体で経済が停滞し、雇用や老後などへの社会不安が増しています。そして札幌も、超高齢社会、人口減少というかつて経験したことのない時代を迎えます。

しかし、このような時代の変化にも適応し、乗り越えていく札幌でなければなりません。多くの市民が好きだと思い、「全国一」と評される札幌の魅力と誇り—これをさらに磨き高めて、次代に引き継ぐことが必要です。

札幌市は平成18年、「創造都市さっぽろ」を宣言しました。それは、札幌の魅力をもとに、創造性に富む市民の力で、国内外との交流により新しい産業や文化を生み出そうとするものです。そして、札幌市は、この創造都市さっぽろの象徴的な事業として、都市と自然が調和した固有の都市環境を活かした国際芸術祭を平成26年から定期的を開催したいと考えています。

文化芸術の多様な表現に代表される創造性が感動を生み、その共感が新たな創造性を生むという循環は、札幌のブランドと魅力を高め、文化芸術ばかりでなく、新たな産業を生み出す契機となると確信しています。

この国際芸術祭の開催を契機に、札幌が有する素晴らしい都市資産に磨きをかけ、札幌の魅力を高めて、その情報を世界に発信しながら、誰もがいきいきと活動できる創造都市を目指して、次代に引き継いでいきたいと思いをします。

最後に、基本構想の策定に当たってご尽力いただいた検討委員会の委員の皆様へ感謝を申し上げますとともに、今後、実施主体となる実行委員会を立ち上げ、さらに具体化を図っていきますので、皆様のご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

平成24年6月

札幌市長 上田 文雄

<目次>

1. はじめに

(1) 背景.....	1
(2) 検討経緯.....	2
(3) 「国際芸術祭」の位置づけ.....	3

2. 基本的な考え方

(1) 開催目的.....	4
(2) 期待される役割.....	5
(3) 基本方針.....	7
(4) 展開方針	9

3. 開催概要

(1) 名称.....	11
(2) 開催年・スパン.....	11
(3) 開催時期・期間.....	11
(4) 会場.....	13

4. 事業規模等

(1) 事業規模.....	15
(2) 作家数.....	15
(3) 経済波及効果.....	16

5. 実施体制

6. 事業スケジュール

参考資料	19
------------	----

用語集	25
-----------	----

1. はじめに

(1) 背景

①文化芸術の振興に関する取り組み

札幌市の文化政策においては、文化芸術を取り巻く社会的背景等に対応し、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための指針として平成21年3月に「札幌市文化芸術基本計画」を策定しました。

この基本計画の目指すところは、文化芸術活動による成果が次々と花ひらくように循環して生み出されていく「花ひらく創造都市」の実現であり、その中で、札幌のアートシーン[※]が一層活発になる契機として「国際芸術展の開催に向けた検討」をすることとしています。

また、平成23年3月には札幌駅前通地下歩行空間の開通、4月には創成川公園のオープン、11月には札幌大通地下ギャラリー「500m美術館」の常設化を行い、都心地区における文化的活動の連続性を創り出す一大ネットワークを形成したことにより、様々な文化芸術イベントの展開が可能となりました。このような雪国札幌ならではの多目的な地下空間ネットワークや緑豊かなパブリックスペースを最大限に活用し、より市民生活に身近なものとして、文化芸術の振興を図ることが期待されています。

②創造都市さっぽろの推進に向けた取り組み

札幌市はこれまで、札幌芸術の森・Kitara・モエレ沼公園などの国内外に誇ることができる文化芸術施設の整備や札幌市デジタル創造プラザ（ICC）を設置して新しい産業の担い手となるクリエイター[※]の育成、デザイン学部を有する札幌市立大学の開学など、市民の創造性を育むまちづくりを進めてきました。

文化芸術は人々に感動を与え、その感動が共有されることで、人々に更なる創造意欲をかきたて、それが新たなコト、モノを生み出す創造的活動へとつながり、新たな商品、産業を生み出す原動力になります。こうした取り組みや考えを背景に札幌市では新しい都市戦略として「創造都市さっぽろ」の取り組みを推進することとし、平成18年3月には「創造都市さっぽろ (sapporo ideas city)」宣言を行いました。

それらの取組みが評価され、平成 20 年には、文化庁長官表彰「文化芸術創造都市部門」を受賞しました。

平成 21 年 3 月には、有識者や公募市民からなる検討組織「創造都市さっぽろ推進会議」が「創造都市さっぽろへの提言」を取りまとめ、5 つの重点プロジェクトの一つとして「定期的な国際芸術展の開催」が提言されました。

③市民による文化芸術活動の広がり

創造都市さっぽろの推進に向けた取組みの一方で、市民や団体によるさまざまな文化芸術活動も展開されています。

平成 21 年の「創造都市さっぽろへの提言」を受けて、民間レベルにおいても市民や団体が中心となった札幌ビエンナーレ[※]・プレ企画実行委員会が設立され、2 つの展覧会を開催（平成 23 年 4 月、11 月）するなど国際的な芸術祭の開催に向けた気運が高まってきました。

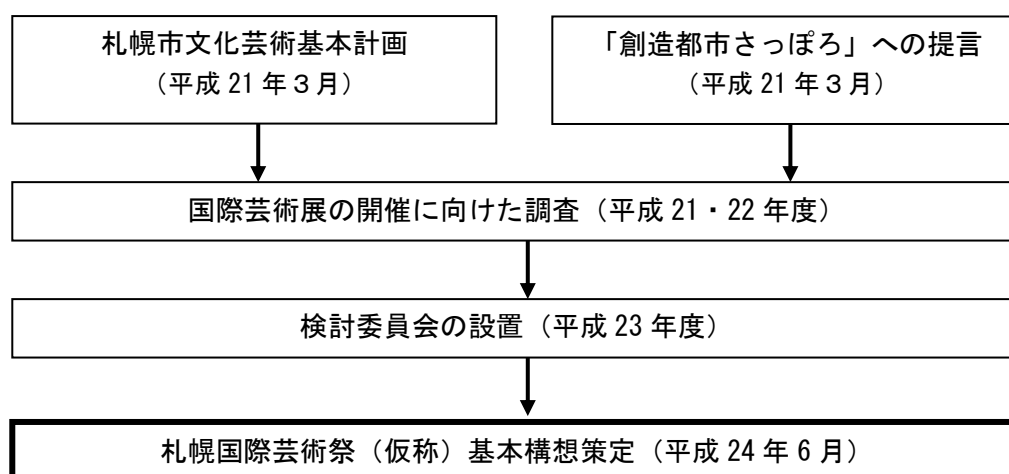
また、彫刻家イサム・ノグチ氏による「公園をひとつの彫刻」とするコンセプトのもとに造成された広大なモエレ沼公園を舞台に開催されるアートフェスティバル「SNOWSCAPE MOERE」（平成 17 年～、年 1 回開催）や多数のアート作品を設置した創成川公園の竣工を記念して開催された「安田侃野外彫刻展－街に触れる－」（平成 23 年 9 月～11 月）、平成 23 年 3 月に完成した札幌駅前通地下歩行空間を会場にインスタレーション[※]や立体作品などの現代美術作品を展示した「さっぽろアートステージ」（平成 23 年 10 月～12 月）など、都市と自然の魅力を活かした多彩な文化芸術活動が行われています。

(2) 検討経緯

札幌市では、前述した文化芸術振興に関する取組み、創造都市の推進、市民による文化芸術活動の広がりを受けて、平成 21・22 年度に国際芸術展の開催に係る調査、平成 23 年度に専門家、美術関係者等による検討委員会を設置し、札幌らしい国際芸術祭のあり方やコンセプト、展開方針について検討してきました。

この基本構想は、国際芸術祭の開催に向けての札幌市の基本的な考え方を示

すものです。



図：基本構想の検討経緯

(3) 「国際芸術祭」の位置づけ

札幌市では、本基本構想において基本的な考え方を示す「国際芸術祭」について、多くの市民や観光客の心を動かし、足を運んでいただくために単に国際的な現代アートによる展覧会（＝国際芸術展）だけではなく、これまで札幌市で実施してきた市民の美術体験や音楽イベントなどさまざまな既存の文化事業や、食や映像コンテンツ[※]に関する祭典や観光イベント、民間ギャラリーや美術団体と連携した企画展などを含み、文化芸術をより身近に感じられるような鑑賞や体験ができる場を提供します。

また、この芸術祭の開催に向けて、交流人口の増加や新たなビジネスチャンスの創出など、産業の振興にもつながるような仕組みづくりが必要です。

このような考えを基本に、「札幌国際芸術祭（仮称）」という呼称を用いることとします。

2. 基本的な考え方

(1) 開催目的

文化芸術は、人々が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で、欠くことのできないものです。また、文化芸術が提供する創造的視点は、新たな産業創出や地域の魅力向上にも大きな力を発揮するものです。

札幌市の文化芸術振興の基本理念と方向性を示した「札幌市文化芸術振興条例」においても、多様な文化芸術を享受できる環境をつくり、文化芸術を地域の産業としてはぐくみ、国内外に発信し、交流を促進することによって、地域の魅力を高めていくことの必要性がうたわれています。

文化芸術を活用したまちづくりのモデル的な事例であるナント市（フランス）では、「三大陸映画祭」や「書籍とアートフェスティバル」などのイベントを核に、文化芸術による都市再生を進め、2003年には人口10万人以上の都市を対象にフランスの週刊誌「ル・ポワン」が毎年実施している調査でフランスで最も住みやすいまちと評価されるまでになりました。文化芸術は、時間をかけた取り組みによって、人々のアイデンティティ^{*}や活力に満ちた暮らしを実現するだけでなく、まちの魅力再生の原動力ともなります。

このようなことから、札幌市では、より一層、文化芸術が市民に親しまれ、心豊かな暮らしを支えるとともに、札幌の歴史・文化、自然環境、IT、デザインなど様々な資源をフルに活かした次代の新たな産業やライフスタイルを創出し、その魅力を世界へ力強く発信していくために、「創造都市さっぽろ」の象徴的な事業として、「国際芸術祭」を開催します。

具体的には以下の4つを目的とします。

①文化芸術に満ちた札幌独自のライフスタイルの創出

質の高い最先端の文化芸術に触れる多様な機会を提供することで、市民が暮らしの中で文化芸術により親しみ、刺激を受けながら、市民一人ひとりが持つ創造性を生き活きと発揮できる札幌独自のライフスタイルの創出を図ります。

②札幌らしい文化芸術を支える人づくり

地域の文化芸術の将来の担い手である北海道・札幌の若手アーティスト・アートマネージャーなどと国内外のアーティストとの交流を促し、アート人材の啓発・育成を支援しながら、札幌らしいアートシーン[※]の活性化を図ります。

③文化芸術の力による札幌の魅力再発見と新たな価値創造

アートを媒介にしながら、北国固有の気候風土や地域に根ざした歴史・伝統文化、豊かな自然環境、多彩なイベントやインフラなどの都市の資源といったものを、さまざまな切り口で、札幌の潜在的な魅力として引き出し、多様な価値を生み出します。

④「創造都市さっぽろ」を牽引する多様な人材の集積・交流

世界の文脈に通ずる札幌独自の最先端アートを創造・発信することにより、札幌の魅力を国際的に高めながら、世界における札幌のプレゼンス（存在感）を向上させ、「創造都市さっぽろ」を牽引する多様な人材の集積・交流を図ります。

(2) 期待される効果

前述の目的に加えて、さらに文化芸術は、創造的な経済活動の源泉となるとともに、持続的な経済発展の基盤となりえるものです。文化芸術は人々に考えるきっかけと感動を与え、その感動が共有され、現在を顧みることで人々に更なる創造意欲をかきたてます。

それらの創造力は、これまで札幌が培ってきた文化芸術活動や質の高いデザイン、技術力と交わることで、札幌ならではのコト、モノを生み出す独自の創造的活動へとつながり、新たな仕組み・商品づくり、産業の創出へと展開されます。

このように、文化芸術による「創造サイクル」は、まちづくりの活性化や観光・経済の振興へと波及することが期待されます。

具体的には以下の3つの効果を上げることを目指します。

①まちづくりの活性化

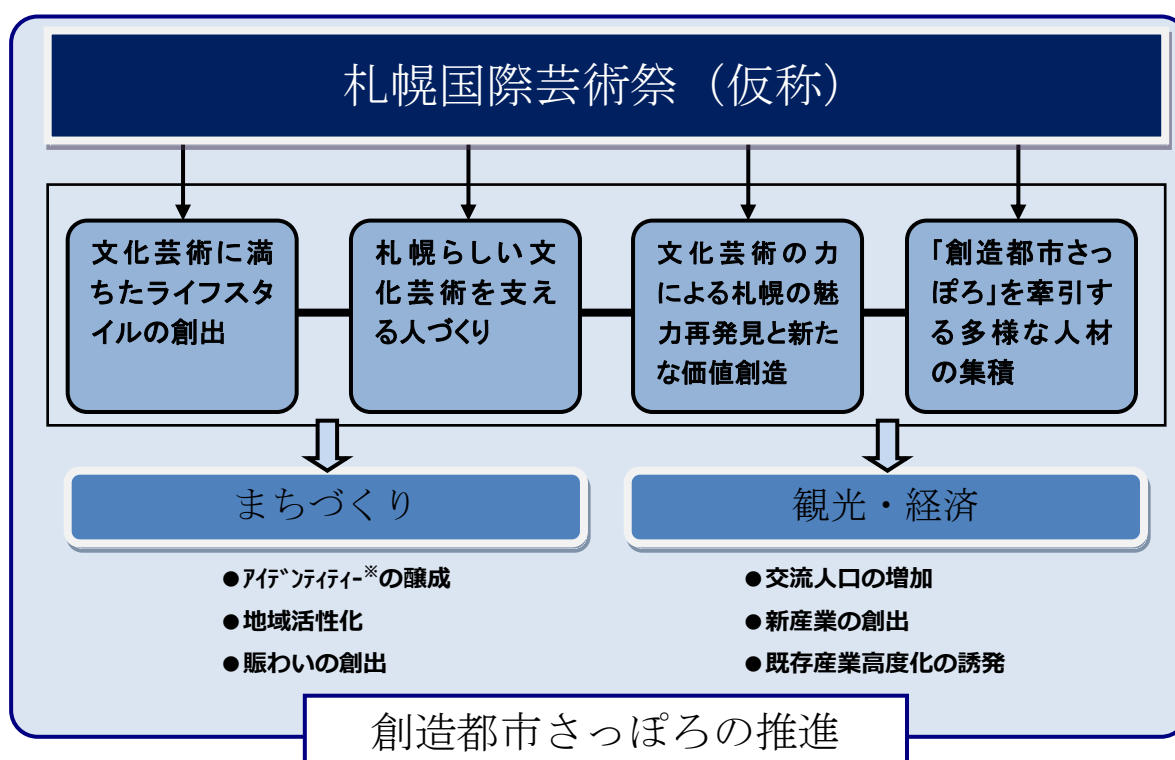
幅広い文化芸術活動を市民とともに展開することで、個人としての誇りやアイデンティティー[※]の醸成がもたらされ、地域の活性化や賑わいを創出するきっかけとなります。

②観光の振興

札幌国際芸術祭（仮称）により、文化芸術の力で札幌の魅力を引き出して国内外に発信するとともに、札幌が有する音楽や映像コンテンツ[※]などの文化的イベントや代表的な観光資源と言える食、自然景観、歴史的資産などの魅力を体験できる機会を提供することを通じて、交流人口の増加につなげていきます。

③経済の振興

この札幌国際芸術祭（仮称）という場を通じて市民の創造意欲をかきたて、企業・アーティストなどとの多様な交流による創造性の融合を図りながら、新たなデザイン（仕組み）を生み出す創造的活動につなげ、新産業の創出や既存産業の高度化を誘発していきます。



図：札幌国際芸術祭（仮称）の目的と効果

(3) 基本方針

現代芸術の祭典である国際芸術祭は、イタリアのヴェネチアで 1895 年から開催されている「ヴェネチア・ビエンナーレ[※]」が起源といわれており、現在では、毎年、世界の諸都市で国際芸術祭が開催されています。

海外では、あるテーマをもとに現代美術の先端を担う作家を世界中から集めて紹介する「ドクメンタ/ドイツ・カッセル」をはじめ、アジア諸国においても現代アートマーケットの成長が著しい中国での「上海ビエンナーレ/中国・上海」など重要な芸術祭が実施されています。

また、国家的な文化戦略を掲げる隣国韓国においても、大型の展示施設での展覧会を核に市民参加型アートプロジェクトを幅広く展開する「光州ビエンナーレ[※]（1995 年～）」、美術館での展覧会と港の倉庫やビーチなどの資源を活用した「釜山ビエンナーレ[※]（2002 年～）」など地域の特性を生かした芸術展が開催されています。

国内においても、限界集落の活性化を目的に里山などの自然環境や古民家、廃校などを活用したツーリズム型の「大地の芸術祭～越後妻有アートトリエンナーレ[※]（2000 年～）」や、市立美術館での大規模な展覧会を中心に高架下や空き家を活用してまちに展開する「横浜トリエンナーレ[※]（2001 年～）」、港町の特徴であるコンテナを展示空間とする公募型の「港で出会う芸術祭～神戸ビエンナーレ[※]（2007 年～）」、美術館等での展覧会に加えて繊維問屋街の空きビルなどを活用する「あいちトリエンナーレ[※]（2010 年～）」、瀬戸内海の島々を巡りサイトスペシフィックアート[※]を回遊しながら楽しむ「瀬戸内国際芸術祭（2010 年～）」などが各地で開催されています。

これら国内外の芸術祭では、それぞれの地域・都市が有する都市資源・自然資源を活かした個性的な取り組みがなされており、それがそれぞれの芸術祭の魅力につながっています。

このようなことから、札幌における国際芸術祭についても、じっくりと腰を据えた議論と実験を繰り返しながら、札幌が持つまちの特性を活かすことが必要不可欠です。

札幌市は、190万人という日本で5番目の人口規模を有する、文化施設や創造的な社会資本が集積する利便性の高いコンパクトな北海道の中心都市であり、多様なイベントなどが開催されています。

一方で、街中にいながらも、藻岩山や円山などの山並みを身近に感じ、また、車で30-40分程度の移動で、都会の喧噪から離れた自然豊かな環境に身を委ねることができる、特有の立地環境を有しています。

札幌のイメージに関する市民意識調査（平成23年度）においても、「緑が多く自然が豊かである」「四季がはっきりしていて季節感がある」という自然環境が評価される一方で、「地下鉄やJRなどの公共交通機関が整備されている」「官庁や学校、企業やデパート、病院が集中していて便利」といった都市的暮らしの魅力についても支持されています。

また、札幌市がシティプロモート戦略検討の一環として実施した市外有識者ヒアリング（平成21年度）では、「都市でありながら自然を満喫できる環境と開放的なイメージである」といった事が言及されています。

これらのことから、札幌が有する「都市」の魅力と「自然」の豊かさ、この二つの魅力が札幌の資源であると考え、**「都市と自然」**を札幌国際芸術祭（仮称）の基本方針に掲げ、札幌の強み、個性を十分活かした、札幌ならではの芸術祭を成功させて、創造都市さっぽろを力強く推進していきます。

なお、今後の開催テーマは実施主体及び芸術監督等と協議しながら検討します。

(4) 展開方針

3頁「1-(3)国際芸術祭とは」で整理したように、「札幌国際芸術祭（仮称）」は、現代アートの展覧会に加えて、さまざまな祝祭的な要素を盛り込み、芸術に興味のある方々だけでなく、多くの市民や観光客に文化芸術をより身近に感じてもらい、親しみあるものとします。

そのため、以下の5つの展開方針を設定します。

① 多様な文化芸術分野と複合した世界最先端の現代アート展の実施

絵画、彫刻、インスタレーション[※]など現代美術を中心にしながら、音楽やパフォーマンス[※]など多様な文化芸術分野と複合した展覧会等を文化芸術関連施設や街中の様々なパブリックスペース[※]、自然環境を活用して実施します。この芸術祭を通じて、地元アーティストを世界に発信するために、北海道・札幌を地場に活動するアーティストの作品発表の機会を創出します。

また、地場で活動するアートマネージャー等と協働しながら芸術祭を開催することを通して、芸術文化に関わる人材を育成していきます。

さらに、市民のボランティア活動や滞在型作品制作、ワークショップ[※]などにより、多様な市民参画やアーティストとの交流機会を提供し、市民が札幌国際芸術祭（仮称）に親しみを持てるようになることを目指します。

② 既存の文化事業との連携

札幌市でこれまで実施してきた子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」や「おとどけアート」、国際教育音楽祭「パシフィック・ミュージック・フェスティバル」や国内最大規模のジャズフェスティバルである「サッポロ・シティジャズ」などの音楽イベント、映像コンテンツ[※]のマーケット創出を目的に掲げる「札幌国際短編映画祭」など、さまざまな既存の文化事業と連携し、芸術祭の広がりを創ります。

③ 札幌の魅力を体験する観光イベントとの連携

芸術祭の開催期間中、大通公園等で実施される「さっぽろ夏祭り」や「オー

タムフェスト」などの食のイベントと連携を図り、現代アートとあわせて、市民や観光客が札幌の魅力を体験できるものとしします。

④民間ギャラリーやアート関連団体との連携による企画展

民間ギャラリーやアート関連団体等による企画展や公募展・アートフェアと連携し、より広がりのある芸術祭を目指します。

⑤メディアアーツの展開

札幌が有するコンテンツ[※]企業の集積や新しい産業の担い手となるクリエイター[※]の育成施設などの豊富な資源を活かし、デジタル技術と芸術を融合した新しい芸術表現であるメディアアーツ[※]を、札幌国際芸術祭の特徴の一つとして展開します。

また、札幌市は、創造都市間の交流を促す仕組みである「ユネスコ創造都市ネットワーク[※]」の加盟を目指しており、その登録分野もメディアアーツ[※]であることから、メディアアーツ[※]を積極的に取り入れていきます。

3. 開催概要

(1) 名称

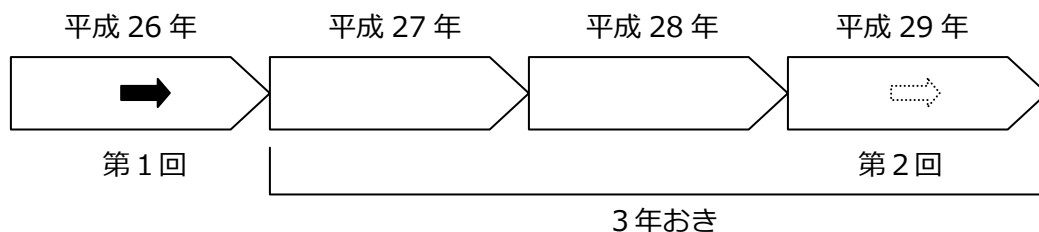
札幌国際芸術祭（仮称）

※実施主体を設置後、正式名称を決定します。

(2) 開催年・スパン

国内の他の国際芸術祭においても、実施主体となる実行組織の設立や出品作家・会場管理者等との調整などに、約2年以上の準備期間を費やしているところが大半であることから、札幌においても今後2年間の準備期間をとり、初回の開催を平成26年度とします。

また、第2回目以降についても、十分な準備期間をとるとともに、潮流の変化の激しい現代アートの文脈をタイムリーに伝えるという観点から、3年ごとの定期的な開催（トリエンナーレ[※]）を目途とします。



(3) 開催時期・期間

札幌は、季節の移り変わりが明確で、春夏秋冬、四季折々の魅力があります。特に冬は札幌ならではの魅力を有しています。一方、イベントが集中し観光客が最も多い時期は、冷涼で過ごしやすい夏場です。この時期は、道内外だけでなく、市民の活動も活発的であり、市内、道内外の誘客を図る時期として相応しいと考えられます。

他都市の来場者の状況を参考にすると、札幌国際芸術祭（仮称）においても、来場者の半数以上が、地域住民（市民・道民）となることが想定され、開催時期の設定に当たっては、市民・道民が来場しやすいという視点を持つことも必

要です。

また、札幌国際芸術祭（仮称）の開催期間中に実施される既存イベントとの連携により、相乗的な PR 効果を生むことができ、それにより多くの市内外の方に周知を図ることができます。

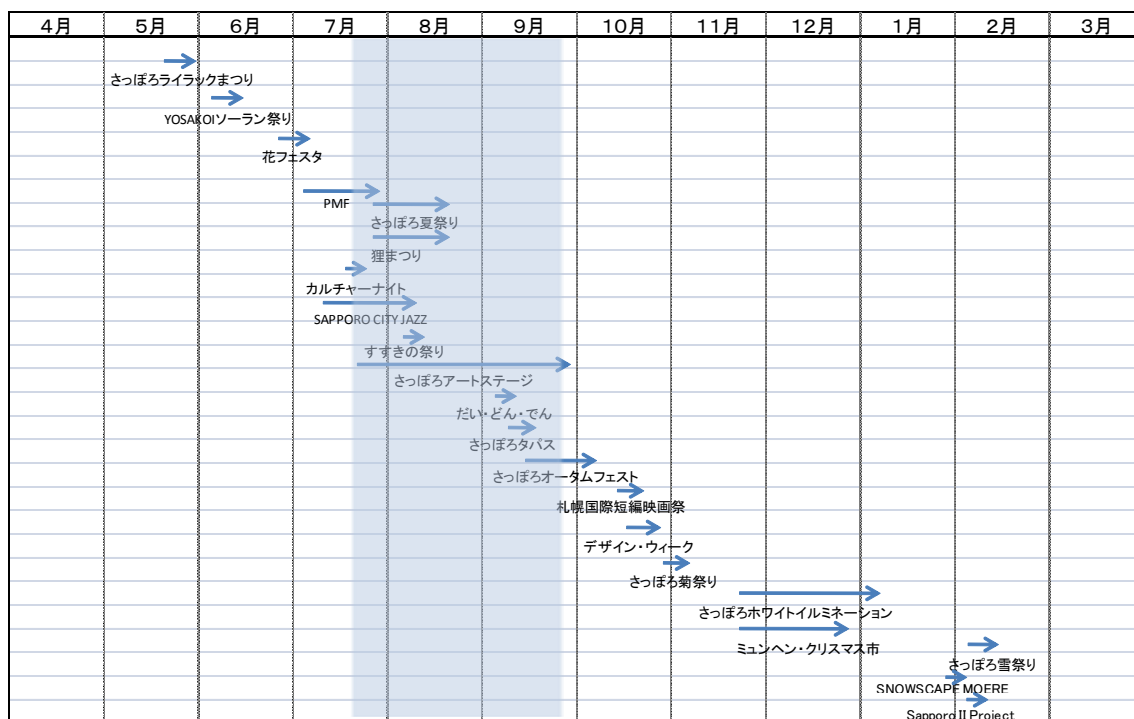
このような効果的なプロモーションにより、札幌に興味を持つ道外・海外の方の来訪を促すこと、そして観光客の札幌滞在日数を増やすことが期待されます。

これらのことから、開催時期は、既存イベントとの連携やより多くの市民・道民・観光客が来場しやすい夏を基本としますが、冬の魅力の活用もあわせて検討します。

また、他の芸術祭の開催期間や収支のバランスを検討しながら 70 日間程度を想定し、観光客のピークの長期化を図ることで観光産業の活性化にも寄与していきます。

あわせて現在では、10 月下旬～12 月初旬に開催している「さっぽろアートステージ」の開催時期を調整して相乗効果を図ります。

なお、他都市の事例でも、今までの開催時期(9 月～11 月) を 8 月～10 月と変更したところ、夏休み中の子供が多く来場するなど来場者数を伸ばした実績もあり、札幌国際芸術祭（仮称）においてもこのような効果も考慮していきます。



図：開催時期と他の主要なイベント

(4) 会場

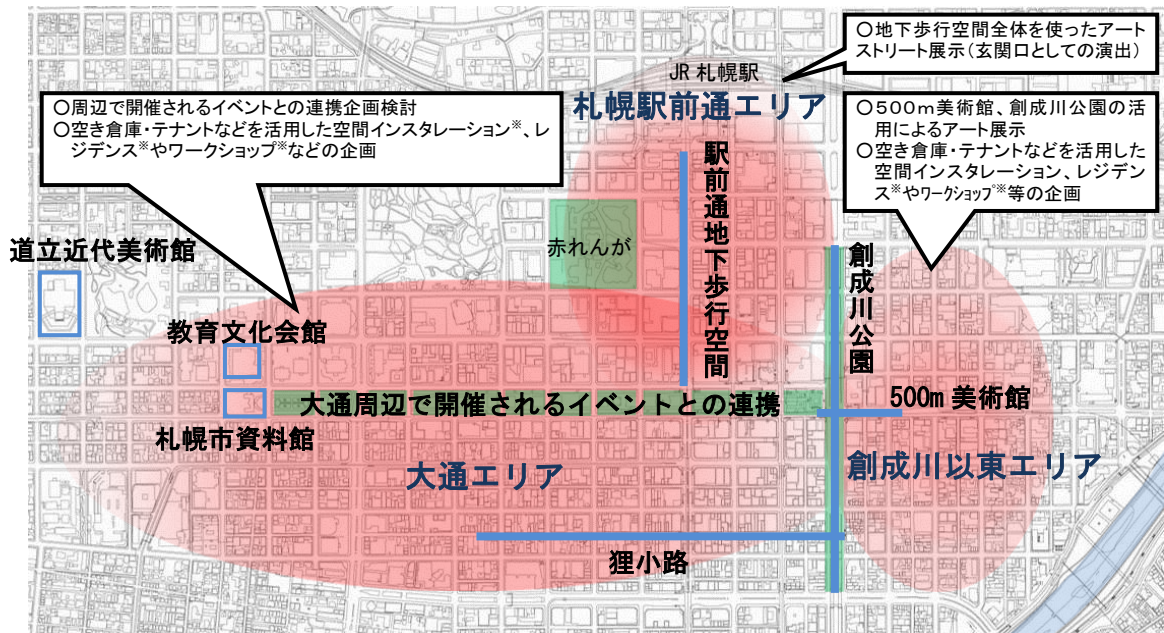
基本方針に掲げた「都市と自然」に基づき、大きく『都市=まち』と『自然=森』の2つのフィールドで構成し、それぞれ札幌の特性を引き出す会場を設定します。

① 『まち』フィールドの主な会場

『まち』フィールドは、

- ・観光客等へのウェルカムゲートとして機能する駅前通地下歩行空間を有する「札幌駅前通エリア」
- ・芸術祭の期間中、大通公園などで開催されるさっぽろ夏祭りやオータムフェスト、サッポロシティジャズなど札幌の特徴的なイベントと連動が可能な「大通エリア」
- ・創成川公園や 500m 美術館などの発表の場を有する「創成川以東エリア」

の3エリアを中心に、その他の文化観光資源等の活用を検討し、市民や観光客が札幌をまち歩きしながらアートを楽しむことを目指します。



②「森」フィールドの主な会場

「森」フィールドは、40ha の自然豊かな広大な敷地の中に、鑑賞、発表、制作、研修、情報交流の機能を備えた文化芸術施設が点在する「札幌芸術の森」をフィールドとします。

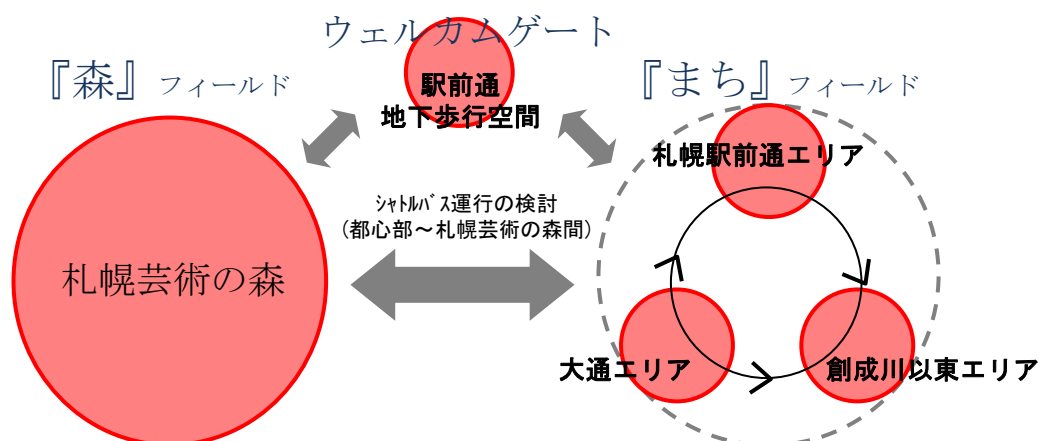
美術館などの屋内だけでなく、札幌芸術の森全体を活用することで自然環境と一体的な作品の展示やイベントを展開し、札幌芸術の森のロケーション※自体を楽しむことができる会場構成とします。

さらに郊外部のモエレ沼公園や石山緑地なども連携事業の実施を検討します。

郊外部へのアクセス利便性を確保するために、開催期間中、都心部～札幌芸術の森間のシャトルバスの導入など交通アクセスについて検討します。



図：札幌芸術の森会場の使用イメージ図



図：会場の全体概念図

4. 事業規模等

(1) 事業規模

国内の他都市における芸術祭の事業規模は右表のとおりとなっており、札幌国際芸術祭（仮称）ではこれらを参考に、第1回目は3億円程度の事業規模を見込みます。

今後、公的助成金等の活用や民間活力の導入等を図りつつ、札幌ならではの特徴を活かした芸術祭となるよう検討をしていきます。

表：他都市の芸術祭における事業規模

名 称	事業規模
横浜トリエンナーレ 2008 (横浜市)	7.9 億円
水と土の芸術祭 2009 (新潟市)	4.0 億円
あいちトリエンナーレ 2010 (愛知県)	10.1 億円
瀬戸内国際芸術祭 2010 (香川県ほか)	6.6 億円
神戸ビエンナーレ 2009 (神戸市)	3.3 億円

(2) 作家数

国内の他都市における芸術祭の作家数は右表のとおりとなっており、札幌国際芸術祭（仮称）では、国内外の50～70程度の作家による芸術祭を想定しますが、作家数については今後、実施主体及び芸術監督等と協議しながら、芸術祭の詳細企画内容に応じて具体的に検討していきます。

表：他都市の芸術祭における作家数

名 称	作家(グループ)数
横浜トリエンナーレ 2008 (横浜市)	63 作家
水と土の芸術祭 2009 (新潟市)	61 作家
あいちトリエンナーレ 2010 (愛知県)	75 作家
瀬戸内国際芸術祭 2010 (香川県ほか)	75 作家
神戸ビエンナーレ 2009 (神戸市)	330 作家 (陶芸展 80、フォト展 73、生け花 124 含む)

(3) 経済波及効果

札幌国際芸術祭（仮称）の経済波及効果は、詳細事業計画を検討する中で算出していくこととなりますが、国内の他都市の事例を勘案すると一定規模の経済波及効果が得られることが想定されます。

今後、多くの市民や観光客がこの札幌国際芸術祭（仮称）に関心を持ち、参加（来場）していただけるような仕組み（例：滞在型作品制作を増やしその現場を公開する、作品制作ボランティア制度の導入など）を検討していきます。

表：他都市の芸術祭における来場者数・経済波及効果

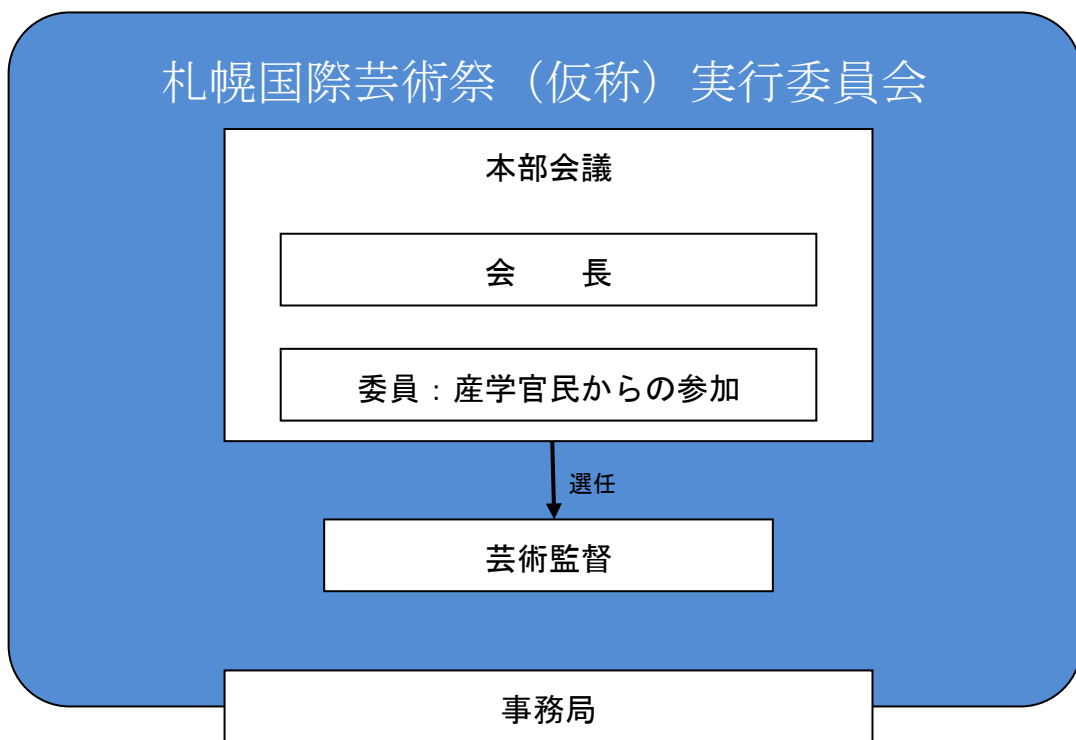
名 称	来場者数	経済波及効果
横浜トリエンナーレ 2005 （横浜市）	189,568 人 （目標 15 万人）	50.33 億円 （浜銀総研調べ）
水と土の芸術祭 2009 （新潟市）	549,423 人 （目標 35 万人）	12.5 億円 （新潟市調べ）
あいちトリエンナーレ 2010 （愛知県）	572,023 人 （目標 30 万人）	78.1 億円 （実行委調べ）
瀬戸内国際芸術祭 2010 （香川県ほか）	938,246 人 （目標 30 万人）	50 億円 （日銀高松支店調べ）
神戸ビエンナーレ 2009 （神戸市）	164,434 人 （目標 15 万人）	未算定

5. 実施体制

産学官民で「札幌国際芸術祭（仮称）実行委員会」を組織し、主催者（実施主体）とします。

実行委員会は、札幌国際芸術祭（仮称）の展示企画方針と内容の設定、アーティストの選定や作品・活動内容等に関する総合責任者として芸術監督を選任します。

芸術監督は、実行委員会と方向性や内容等を確認しながら世界最先端の内容を目指して、芸術祭の具体的な内容を取りまとめていきます。



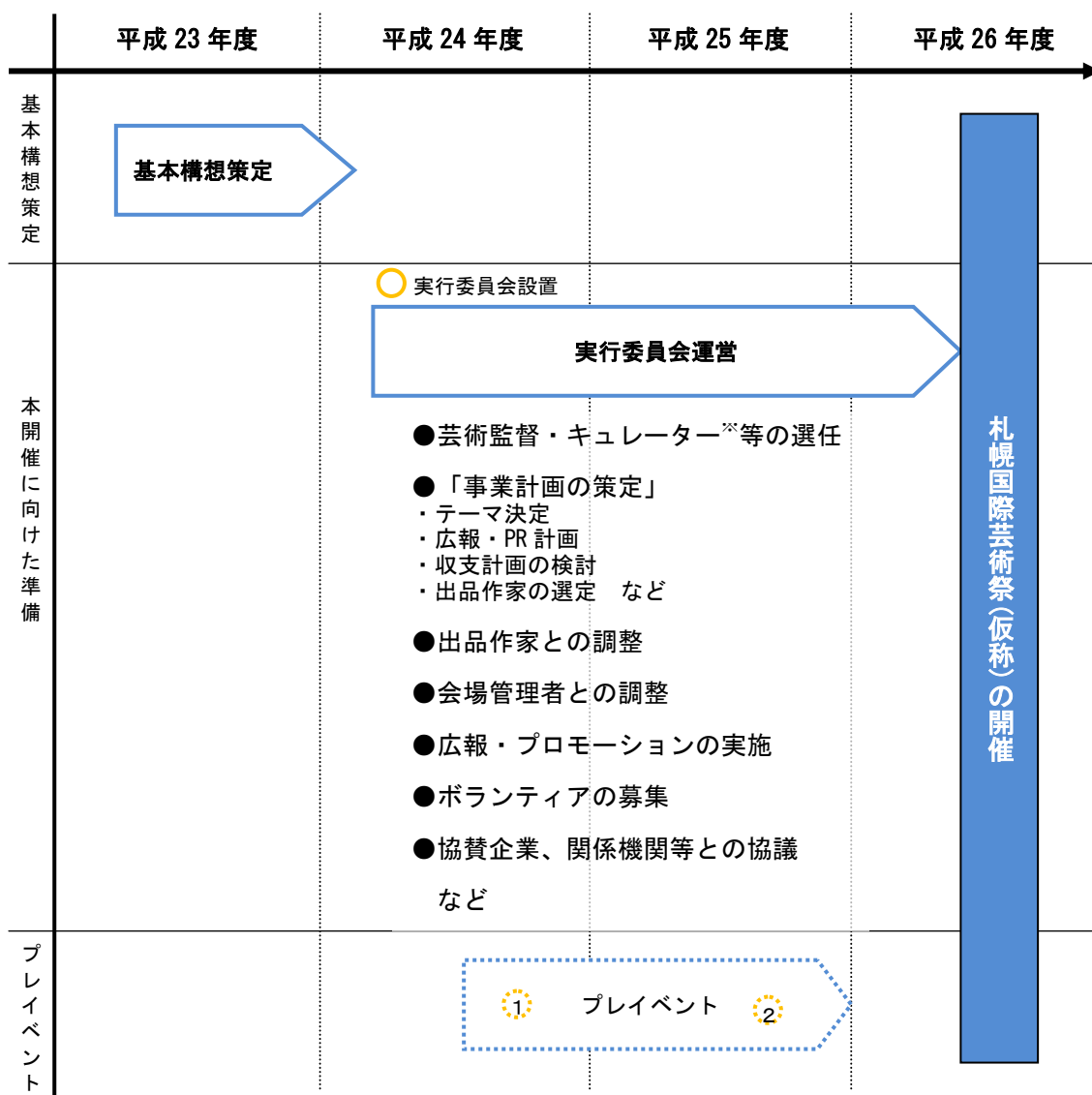
図：実施体制イメージ図

なお、この芸術祭を通じて得られる国内外のアーティストとの関係や様々な人的ネットワーク、開催ノウハウが実施主体である実行委員会に蓄積されるような運営体制を検討していきます。

6. 事業スケジュール

平成 26 年度の本開催に向けて、平成 24 年度に札幌国際芸術祭（仮称）の実施主体となる実行委員会を設置し、芸術監督・キュレーター[※]などを選任し、具体的な企画内容を検討します。

あわせて、平成 24・25 年度には、市民に札幌国際芸術祭（仮称）の意義・目的を理解してもらい、開催気運を高めるためのプレイベントを実施します。



図：事業スケジュール

参考資料

国際芸術展基本計画策定検討委員会 委員名簿 19

国際芸術展基本計画策定検討委員会 設置要綱 20

国際芸術展基本計画策定検討委員会 開催概要 21

国内各都市の国際芸術祭の開催状況一覧 23

国際芸術展基本計画策定検討委員会 委員名簿

平成 23 年 8 月 8 日現在（敬称略）

氏 名	役 職	備 考
阿部 典英	北海道文化団体協議会 会長	
端 聡	札幌ビエンナーレ・プレ企画実行委員会 芸術監督 CAI/(有)クンスト 代表取締役	
佐藤 友哉	道立近代美術館 学芸副館長	
奥岡 茂雄	札幌芸術の森美術館 館長	委員長
天野 太郎	公益財団) 横浜市芸術文化振興財団 横浜美術館 主席学芸員	
梶原 隆	社) 札幌観光協会 専務理事	
北村 清彦	北海道大学文学研究科（芸術学講座）教授	

オブザーバー	札幌市市長政策室政策企画部	
--------	---------------	--

事務局	札幌市観光文化局文化部	
受託業者	(株) ノーザンクロス	

国際芸術展基本計画策定検討委員会 設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、札幌市が平成26年に開催を検討している国際芸術展について、札幌らしい特徴のある国際芸術展にするための基本計画を検討することを目的とする。

(組織)

第2条 次条各号について検討するため、「国際芸術展基本計画策定検討委員会」(以下「検討委員会」という。)を設置する。

- 2 委員会は、市長が委嘱する委員をもって構成する。なお、委員の数は原則として8名以内とする。
- 3 委員会に委員長1人を置く。委員長は委員の中から互選する。
- 4 委員長は会議を代表し、会務を総理する。
- 5 委員長に事故があるときは、その他の委員の中から互選する。
- 6 委員全員の賛同をもって委員を追加することができる。当該委員については、市長が委嘱することとする。

(検討事項)

第3条 検討委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 札幌での国際芸術展の開催意義や開催目的
- (2) 札幌らしさを打ち出した事業の方針
- (3) 開催に向けた運営の仕組み(実行委員会など運営を主導していく組織体制構築及びそのメンバー)
- (4) 会場、会期
- (5) 開催にかかる工程表(24-25年度の実施計画案含む)
- (6) その他、国際芸術展開催に必要な事項

(専門委員)

第4条 検討委員会は、必要に応じて専門委員を置くことができる。

- 2 専門委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから市長が委嘱する。
- 3 専門委員は、検討委員会の要請に応じて、専門的見地から助言等を行う。

(任期)

第5条 委員の任期は委嘱日から平成24年3月31日までとする。

- 2 特定の職により委員会の委員となった者に異動があるときは、その後任者が引き続き委員会の委員となる。
- 3 前項による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(開催)

第6条 委員会は必要に応じて委員長が招集する。

- 2 委員会の議長は、委員長をもってあてる。
- 3 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 4 委員会は、非公開とする。

(報酬)

第7条 委員の報酬は日額12,500円とする。

(事務局)

第8条 検討委員会の庶務を行うため、事務局を観光文化局文化部市民文化課に置く。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の開催に必要な事項は、観光文化局長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年8月8日から施行する。

国際芸術展基本計画策定検討委員会 開催概要

【第1回】

日時：平成23年9月9日（金） 13:30～15:30

会場：札幌市役所12階3号会議室

[主要議題]

（1）委員長の選出について

- ・設置要綱第2条の規定により奥岡委員に決定

（2）創造都市さっぽろについて説明

- ・所管課である市長政策室企画課より説明及び質疑応答

（3）事務局説明

- ・札幌市における国際芸術展をめぐるこれまでの経緯、開催の目的と検討の視点の説明及び質疑応答

※第1回目は、国際芸術展の基本計画の策定イメージ及び今後の検討課題について確認。各委員が各々それらを検討の上、第2回目に議論をすることとなった。

【第2回】

日時：平成23年11月1日（火）16:30～18:30

会場：札幌市役所B1階2号会議室

[主要議題]

（1）名称について

- ・国際芸術“展”と“祭”の検討
- ・副題設定の必要性

（2）開催スパンについて

- ・準備期間の確保

（3）開催時期について

- ・冬期間の開催に関する検討
- ・夏休みを会期に含めることに関する検討

（4）開催期間について

- ・収支予算からの検討の必要性

（5）会場について

- ・仮設の設営、市内文化施設、空き店舗等の活用

【第3回】

日時：平成24年1月24日（火）15:00～17:30

会場：札幌資料館、札幌市教育文化会館3階会議室

[主要議題]

(1) 基本方針について

- ・「都市と自然」とする

(2) 開催時期・期間について

- ・観光客のハイシーズンの考慮
- ・PMFなどの他事業との連携
- ・夏休み期間の考慮
- ・収支バランスの考慮

(3) 会場について

- ・市内文化施設、空き店舗等の活用

(4) 実施体制について

- ・人的ネットワークや開催ノウハウなどが継承できる体制

【第4回】

日時：平成24年3月23日（金）15:00～17:00

会場：札幌市役所6階1号会議室

[主要議題]

(1) 開催時期について

- ・第1回目は夏開催とする
- ・冬季開催に関する検討の継続

国内各都市の国際芸術祭の開催状況一覧

	2008年度			2009年度			2010年度		
	横浜トリエンナーレ2008	越後妻有トリエンナーレ2009	新潟芸術祭2009	神戸ビエンナーレ2009	あいちトリエンナーレ2010	瀬戸内国際芸術祭			
副題		大地の芸術祭	水と土の芸術祭	港で出会う芸術祭	都市の祭典	アートと海を巡る5日間の冒険			
ジャンル	現代アート	現代アート	現代アート	現代アート、いけばな、陶芸、大連芸等	現代アート、舞台芸術(ダンス、前衛劇、オペラ)	現代アート			
開催地	横浜市	越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)	新潟県新潟市	兵庫県神戸市	愛知県名古屋市	香川県高松市港周辺及び瀬戸内海の7つの島			
開催の契機、位置づけ	クリエイティブシティ構想の中、アジアで大規模な国際展として展開し、創造都市を推し進める。	県の施策(ニュー・ユニーク)にむけて、里創ブランドの地場活性化事業として実施	新潟市内各所	平成18年度の「神戸文化創造都市宣言」推進方針	愛知芸術文化センター及び周辺の都市空間	地域復興、活性化			
会場	横浜港湾地域	都心から離れた山村部	新潟市内各所	メリケンパーク、県立美術館		香川県高松市港周辺及び瀬戸内海の7つの島			
回数	2001年から3回目	2000年から4回目	初回	2007年から2回目	初回	初回			
期間	2008年9月13日～11月30日/79日間	2009年7月26日～9月13日/50日間	2009年7月18日～12月27日/144日間	2009年10月3日～11月23日/52日間	2010年8月21日～10月31日/72日間	2010年7月19日～10月31日/105日間			
実施主体	国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会	実行委員会(実行委員長 十日町市長)	実行委員会(実行委員長 新潟市長)	組織委員会(会長 神戸市長ほか3名)	実行委員会(愛知県、名古屋市等)	実行委員会(会長、香川県知事、副会長、香川県商工会議所連合会会長、高松市長)			
行政の役割	事務局運営(横浜市 事務局次長1名ほか5名)	事務局運営(十日町市 常駐スタッフ6人) ※作品制作、アーティストの選定は概アートフロントキヤラリーに業務委託	事務局(神戸市 スタッフ8人) ※企画運営等についても実質的に行っている。	事務局(神戸市 スタッフ28人) ※企画運営等についても実質的に行っている。	事務局運営	事務局担当(香川県職員12名、高松市職員3名従事) 20年度(2年前)8名→21年度(1年前)12名			
プロデューサー	福武総一郎	福武総一郎	-	-	-	福武総一郎(財)福武美術財団理事(長)			
ディレクター	水沢 勉(神奈川県立近代美術館企画課長)	北川ワラム	北川ワラム	総合ディレクター 吉田 素巳ほか8名	-	北川ワラム(女子美術大学美術学専任教授)			
芸術監督	-	-	-	-	鎌島 哲(国立国際美術館館長)	-			
市民の関与	○横浜トリエンナーレボランティア ・作品制作アシスト、ガイドツアーの企画など ○横浜トリエンナーレサポーター ・アート関連7分野以外の企画実施	○ボランティア(こへび隊) ・恒久作品(約200点)のメンテナンス ・施設の掃除、作品の案内、受付 ○地域住民	○ボランティア(神戸ARTサポーターズ) ・関連イベントの運営サポート ・事務局補助(チラシ発送等)	ボランティアによるガイドツアー	ボランティアによるガイドツアー	○こへび隊			
事業費(開催年)	約7.9億円	約6.5億円	約3億円	約3.3億円	約1.0億円	約6億円			
バスポート(チケット)販売状況	92,559枚	第3回(前回)で4～6万枚程度	バスポート 31,672枚 単館チケット 20,136枚	不明	不明	85,654枚(当初目標6万枚)			
入場者数	306,633人	35万人	546,423人(当初目標35万人) うち新潟市以外の県内12.2%、県外15.4%	164,434人(当初目標6万人)	572,023人(当初目標30万人)	938,246人(当初目標30万人)			
特徴	・日本における大規模な国際展としての立ち上げ(国際交流基金との協賛)第4回からは撤退) ・アート作品数/約370点 ・毎回コンセプトやディレクターが変更する	・里山を回遊しながらアート作品を鑑賞 ・限界集落の活性化 ・参加アーティスト40の国と地域、約350組 ・アート作品数/約370点 ・恒久作品の展示	・水と土の関わりをテーマとしたアートが市内各地に点在 ・第2回目の開催を計画中(24年度)。	・震災復興、芸術文化によるまちのにぎわいづくり、活性化 ・港での芸術祭(メリケンパーク会場) ・コンベンション形式(約400作品の応募、展示は30作品)	・現代アートを軸とし、舞踊、オペラ等も対象とした、複合的な芸術祭 ・市民、県民が主体となる2/3 ・まちを舞台としたアート展(長者町)形式	・瀬戸内海の島々を巡りながらのアートツアー形式			

用 語 集

用語	意味
※クリエイター	創造的な仕事をしている人
※アートシーン	文化芸術環境のこと
※ビエンナーレ	イタリア語で「2年に一度」のこと
※インスタレーション	ある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、空間を構成し変化・異化させ、場所や空間全体を作品として体験させる芸術表現のこと
※アイデンティティー	個性のこと
※サイトスペシフィックアート	特定の場所に存在するために制作された美術作品
※トリエンナーレ	イタリア語で「3年に一度」のこと
※パブリックスペース	誰もが自由に入出入りできる開放的な場所のこと
※ワークショップ	参加者全員が自発的に発言をおこなえる環境が整った場で、全員が参加し、体験できるように運営される場のこと
※メディアアーツ	デジタル技術と芸術を融合した新しい芸術表現のこと
※ユネスコ創造都市ネットワーク	創造都市によるまちづくりを進めている世界の都市が、ネットワークを結んで創造性を高め合う取り組みを支援するため、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が2004年に創設したもの
※パフォーマンスアーツ	演劇・舞踊など、肉体の行為によって表現する芸術のこと
※コンテンツ	文章、音楽、画像、映像、またはそれらを組み合わせた情報の集合のこと
※レジデンス	芸術家に一定期間、特定の場所に滞在し、そこで創作活動に専念することのできる環境を提供するプログラムのこと
※ロケーション	立地環境のこと
※キュレーター	展覧会を企画立案し実現していくまでの全体を導く役割の人のこと